

令和4年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

	分掌名 進路指導部	記載者 杉田 道子
重点目標	<p>1 主体的に学びに向かう生徒を育てる。</p> <p>(1) 生徒が早期に進路目標を明確にし、自らの進路を積極的に切り拓く能力を伸ばすようキャリア教育を実践する。</p> <p>(2) 3年間を見通した教科・学年・他分掌との組織的な指導により、生徒の学力向上及び進路志望達成を目指す。</p> <p>(3) 生徒に「学力の3要素」を身に付けさせるために、指導と評価の改善を一層推進する。</p> <p>2 研修テーマを設定し、本校の進路指導力の向上に資する。</p> <p>(1) 「新学習指導要領」に沿った学習指導、及び「令和7年度共通テスト」に向けた進路指導の在り方。</p> <p>(2) 「読解力」「批判的思考力」「表現力」「知識を活用する力」を高める指導の工夫・実践</p> <p>3 職員間の情報共有を図り、全職員で進路指導の実践に当たる。</p> <p>(1) 「エキスパート制」と「系統別ゼミ」を機能させ、全職員による組織的・効果的な指導を行う。</p> <p>(2) 難関大(旧帝大や医学科)を志望する生徒集団を育成するために、3年間を見通した組織的な指導を行う。</p> <p>(3) 3年生進学志望者の第1志望校合格を8割以上達成する。</p> <p>(4) 3年生就職志望者全員の内定を達成する。</p>	
具体的な計画	<p>【3学年】</p> <p>(1) 授業第一主義を継続し、平日補習等を活用し、受験に対応できる学力を養成する。</p> <p>(2) 効果的に進路情報を提供し、生徒が自己の進路目標に向けて主体的に取り組めるように支援する。</p> <p>(3) 適切な助言や声掛けを心掛け、進路達成に向けて生徒が最後まで諦めずに取り組めるように支援する。</p> <p>【2学年】</p> <p>(1) 情報収集、学習内容・方法の見直し等により、進路志望達成への見通しを持たせる。</p> <p>(2) 主体的に学習に向かう習慣の定着と学習時間の増加を図る。</p> <p>(3) 進路志望に応じた「課題研究」を実施し、生徒に進路実現に向けた具体的な戦略を考えさせる。</p> <p>【1学年】</p> <p>(1) 面談やLHR、「総合的な探究の時間」を活用して生徒に自己理解を促し、各自のキャリア目標を設定させる。</p> <p>(2) 主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。</p> <p>(3) 3年間を見通した適切で効果的な進路情報を提供することで、キャリア・プランニングを開始させる。</p>	
具体的な取組状況	<p>前期評価</p> <p>【3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を柱に、放課後補習も活用し、大学受験に対応できる学力の伸長が図られている。 ・コロナ禍3年目の共通実践事項として、「生徒・保護者の保護」「生徒・保護者からの信頼」「一次情報の利活用」が継続されている。担任を中心に面談を繰り返し、生徒と効果的な戦略が練られている。 <p>【2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年部で工夫を凝らして「課題研究」など質の高い進路指導・キャリア教育が実践されている。 ・ICTを活用した模擬試験や難関大学志望者を対象とした個別指導を導入するなど、個別最適化を目指した教科指導に取り組んでいる。 <p>【1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年部による入学後の初期指導が丁寧に取り組み、生徒に進路について考える姿勢の涵養が図られている。 ・ICTを活用し、学習時間調査等による実態把握や進路に関する情報提供が行われている。 ・キャリア教育の一環としての国際理解教育プログラムや、思考力を測定する業者テストなど、新学習指導要領への対応に取り組んでいる。 	総合評価
後期評価	<p>【3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門知識をもつ職員による「放課後教養講座」「看護医療系朝補習」「英作文朝補習」等の指導が行われた。生徒に不足している専門分野の基礎知識を補ううえで、効果的であった。 ・「エキスパート制」については、全職員からの協力が得られ、受験指導に大いに役立った。 ・学年の進路指導部員を中心に、学年部内の連絡調整が十分に機能していた。ICTもよく活用されていた。 <p>【2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の大きな目玉の1つである「課題研究」において大きな成果を挙げた。個々の生徒の資質・能力の見極めや、3年次における適切な進路指導につながる期待される。秋田大学との連携も有効であった。 ・担任や学年進路指導部の丁寧な指導や、学年集会・学年進路通信などにより、生徒たちへ「受験生」としての自覚を促す取組が実施された。特に、難関大志望者への困り込み指導を組織的に実施できた。 <p>【1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HRや総探の時間における担任の指導、外部講師による多くの講演会などにより、キャリア教育の実践がなされた。結果として、来年度の文理選択に関わる指導が丁寧に取り組みされた。 ・前期に引き続き、令和7年度大学入学者選抜に関する情報収集・情報提供、「情報I」への対応が行われた。 	B
今年度の課題	<p>課題1 生徒の家庭学習時間を増加させる指導。</p> <p>課題2 キャリア教育、学習指導、進路指導、部活動、HR、総合的な探究の時間、課題研究等の相乗効果を高める組織の在り方。</p> <p>課題3 組織的・継続的な難関大志望者育成。</p> <p>課題4 令和6年度入試への戦略的指導と備え、および、令和7年度入試への準備・対応。</p>	今後の改善策
	<p>課題1～3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習時間調査データの活用と生徒への啓蒙。 ○教科の協力のもと、SS65～70の科目を持つ生徒を育成するための指導の工夫や習熟度別課題や講座の検討。 ○課題研究への秋田大学との連携強化。県立大との連携の可能性の検討。 ○難関大指導の実践のとりまとめと職員研修。 <p>課題4について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○総合型選抜および学校推薦型選抜の情報収集・共有。 ○綿密な受験スケジュールの作成。 ○業者による研修会等の活用。 	

|

|